

研 究 発 表

研究主題

小小連携・小中連携における校長の役割

～ **関本小中学校開校に向けての取り組みを通して** ～

北茨城市立富士ヶ丘小学校長 坂本 一成

小小連携・小中連携における校長の役割 ～ 関本小中学校開校に向けての取り組みを通して ～

北茨城市立富士ヶ丘小学校長 坂本 一成

I 主題設定の理由

関本中学区では、児童生徒数の減少に伴い学校の小規模化が進み、本校でも平成23年度以降、学級が3クラスとなり、本格的な複式指導が始まった。

北茨城市教育委員会では、平成20年4月に茨城県が示した指針を踏まえ、平成20年10月14日、北茨城市立小・中学校適正規模等検討委員会を設置し、本市の望ましい適正規模について多角的な検討を進めてきた。平成24年12月、関本町に学校を存続させるためには、小学校と中学校それぞれの連携・接続を改善し、一定の学校規模を確保し、教育効果を高めることが期待される小中一貫教育校の設置が望ましいとの考えにいたり、その設置に向けて準備を進めることになった。

平成28年度の関本小中学校開校に向けて、本市教育委員会では、平成25年度から、関本町小中一貫教育校設置協議会を設置し協議を進めている。また、平成28年度からの開校が、児童生徒にとって支障がないように、関本第一小学校・富士ヶ丘小学校との小小連携、関本第一小学校・富士ヶ丘小学校・関本中学校との小中連携を進めてきている。

また、本市教育委員会では、平成26年度から、石岡小学校・華川小学校との小規模校同士の連携を図る「学校間連携チャレンジプラン」（資料1）の実施、平成27年度には、市内5つの中学区での「北茨城の小・中一貫教育の推進」（資料2）により、一層充実した取り組みを進めている。

関本小中学校開校に向けての小小連携・小中連携、また、北茨城市内で行われている小小連携・小中連携を進めるにあたり、校長の役割の在り方を考える必要性を感じ、本主題を設定した。

II 研究のねらい

関本小中学校開校に向けての取り組みを通して、効果的な小小連携・小中連携における校長の役割の在り方を考える。

III 研究の方法

- ・ 小小連携・小中連携の意義と校長の役割について考察する。
- ・ 国や県・市の方針等を踏まえた効果的な小小連携・小中連携の在り方を考察する。

IV 研究の内容

1 小小連携・小中連携の意義と校長の役割について

(1) 小規模校のメリット・デメリットについて

本市教育委員会から平成20年10月14日に、北茨城市立小・中学校の適正規模及び適正配置について諮問を受けた北茨城市立小・中学校適正規模等検討委員会では、平成21年1月に出した答申の中で、小規模校のメリット、デメリットを次のように捉えた。

小小連携・小中連携における校長の役割

～ 関本小中学校開校に向けての取り組みを通して ～

北茨城市立富士ヶ丘小学校長 坂本 一成

I 主題設定の理由

関本中学区では、児童生徒数の減少に伴い学校の小規模化が進み、本校でも平成23年度以降、学級が3クラスとなり、本格的な複式指導が始まった。

北茨城市教育委員会では、平成20年4月に茨城県が示した指針を踏まえ、平成20年10月14日、北茨城市立小・中学校適正規模等検討委員会を設置し、本市の望ましい適正規模について多角的な検討を進めてきた。平成24年12月、関本町に学校を存続させるためには、小学校と中学校それぞれの連携・接続を改善し、一定の学校規模を確保し、教育効果を高めることが期待される小中一貫教育校の設置が望ましいとの考えにいたり、その設置に向けて準備を進めることになった。

平成28年度の関本小中学校開校に向けて、本市教育委員会では、平成25年度から、関本町小中一貫教育校設置協議会を設置し協議を進めている。また、平成28年度からの開校が、児童生徒にとって支障がないように、関本第一小学校・富士ヶ丘小学校との小小連携、関本第一小学校・富士ヶ丘小学校・関本中学校との小中連携を進めてきている。

また、本市教育委員会では、平成26年度から、石岡小学校・華川小学校との小規模校同士の連携を図る「学校間連携チャレンジプラン」（資料1）の実施、平成27年度には、市内5つの中学区での「北茨城の小・中一貫教育の推進」（資料2）により、一層充実した取り組みを進めている。

関本小中学校開校に向けての小小連携・小中連携、また、北茨城市内で行われている小小連携・小中連携を進めるにあたり、校長の役割の在り方を考える必要性を感じ、本主題を設定した。

II 研究のねらい

関本小中学校開校に向けての取り組みを通して、効果的な小小連携・小中連携における校長の役割の在り方を考える。

III 研究の方法

- ・ 小小連携・小中連携の意義と校長の役割について考察する。
- ・ 国や県・市の方針等を踏まえた効果的な小小連携・小中連携の在り方を考察する。

IV 研究の内容

1 小小連携・小中連携の意義と校長の役割について

(1) 小規模校のメリット・デメリットについて

本市教育委員会から平成20年10月14日に、北茨城市立小・中学校の適正規模及び適正配置について諮問を受けた北茨城市立小・中学校適正規模等検討委員会では、平成21年1月に出した答申の中で、小規模校のメリット、デメリットを次のように捉えた。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の特性を把握し、きめ細やかな学習指導、生活指導、児童生徒の指導ができる。 ・教師と児童生徒の親密な人間関係を構築することができる。 ・一人一人が主体となった学習が可能となり、内容の定着度が高くなる。 など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・切磋琢磨、競い合いが少なく、集団生活になじみにくい。 ・話し合いや共同作業などの活動で、学習内容の深まりや広がり が困難になる。 ・役割分担が固定しがちで、新たな意見や挑戦が困難になりやすい。 ・児童生徒間で人間関係や評価が固定化しやすい。 ・対人関係で問題が生じた場合その解消が困難となる。 ・部活動や生徒会活動などに制限が加わる。 ・教員定数上、教科教員の不足が生じ、中学校では専門教育が十分行えなくなる。 など。

(2) 小小連携の意義について

- ① 小規模校のデメリットにある「切磋琢磨、競い合いが少なく、集団生活になじみにくい。話し合いや共同作業などの活動で、学習内容の深まりや広がり
が困難になる。」を解消するためには、多くの児童と関わることにより、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合うことができる小小連携は有効な手段と考えられる。
- ② 複数の小学校から一つの中学校へ進学する場合、中学校で同じスタートラインで指導ができるように、小学校で身につける学力や生活習慣を同じようにしていくことが大切である。そのためにも小小連携が有効な手段となる。

(3) 小中連携の意義について

「小中連携、一貫教育に関する主な意見等の整理【概要】（平成24年9月）中央教育審議会初等中等教育分科会 学校段階間の連携・接続等に関する作業部会」によると、「小中連携」「小中一貫教育」、及びその目的、効果について以下のよう
に述べられている。

- ① 「小中連携」「小中一貫教育」について

「小中連携」…小・中学校が互いに情報交換、交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育
「小中一貫教育」…小中連携のうち、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育

② 小中連携，小中一貫教育の目的，効果について

[目的]

小中学校教職員が義務教育9年間の教育活動を理解することで，9年間の系統性を確保し，教育基本法，学校教育法に新たに規定された，義務教育の目的，目標に掲げる資質，能力，態度等をより良く養えるようにしていくことは，すべての小中連携，一貫教育に共通する基本的な目的

[効果]

現行の取り組みにおける中学校の不登校出現率の減少，学力調査における平均正答率の上昇，児童生徒や教職員の意識面の変化等の成果を普及していく観点から，小中連携，一貫教育の効果検証の在り方，評価指標について国において検討することが必要

(4) 校長の役割

兵庫教育大学 浅野良一氏の「学校ビジョンと戦略」によれば，学校における校長の役割として次の4つを挙げている。

- 1 学校ビジョン構築…学校教育目標の実現に向けて，学校の中期・短期（年度）双方の視点から取り組むべき課題を明確にし，実現のシナリオを描く役割
- 2 環境づくり……………課題達成に向け，学校内外の「人的資源」「物的資源」「資金的資源」「情動的資源」を最も効果的に活かすため，学校の組織づくりや環境整備をする役割
- 3 人材育成……………学校の各種活動を通じて，自らと教職員の能力を向上させ，人としての成長を促進させる役割
- 4 外部折衝……………学校の各種活動の効果を上げるため，学校外部との協働のネットワークを築く役割

上記の学校における校長の4つの役割を参考に，関本小中学校開校に向けての小小連携，小中連携における校長の役割を次のよう考えた。

まず，学校ビジョン構築として，「平成28年度関本小中学校経営基本構想(案)」(資料3)を検討する。その際，小中一貫教育校の理念や茨城県の教育目標，保護者・地域の願い等を考慮して作成する。そして，作成した関本小中学校経営基本構想を関本小中準備委員会で職員に説明し，その基本構想をもとに取り組むことができるようにする。

次に，関本小中学校開校，また関本小中学校経営基本構想の実現に向け，「開校に向けた準備・検討内容」(資料4)を作成し明確にする。それにより，3校職員が，それぞれの部会で協力し合いながら計画的に取り組むことができるようにする。

開校に向けて組織されたそれぞれの部会では，9年間を見通した関本小中学校の具体的な姿や小小連携・小中連携の効果的な在り方を検討していく。

さらに，各検討部員の取り組みの効果をあげるため，本市教育委員会や先進校との連携を密にしていく。

② 小中連携，小中一貫教育の目的，効果について

[目的]

小中学校教職員が義務教育9年間の教育活動を理解することで，9年間の系統性を確保し，教育基本法，学校教育法に新たに規定された，義務教育の目的，目標に掲げる資質，能力，態度等をより良く養えるようにしていくことは，すべての小中連携，一貫教育に共通する基本的な目的

[効果]

現行の取り組みにおける中学校の不登校出現率の減少，学力調査における平均正答率の上昇，児童生徒や教職員の意識面の変化等の成果を普及していく観点から，小中連携，一貫教育の効果検証の在り方，評価指標について国において検討することが必要

(4) 校長の役割

兵庫教育大学 浅野良一氏の「学校ビジョンと戦略」によれば，学校における校長の役割として次の4つを挙げている。

- 1 学校ビジョン構築…学校教育目標の実現に向けて，学校の中期・短期（年度）双方の視点から取り組むべき課題を明確にし，実現のシナリオを描く役割
- 2 環境づくり……………課題達成に向け，学校内外の「人的資源」「物的資源」「資金的資源」「情動的資源」を最も効果的に活かすため，学校の組織づくりや環境整備をする役割
- 3 人材育成……………学校の各種活動を通じて，自らと教職員の能力を向上させ，人としての成長を促進させる役割
- 4 外部折衝……………学校の各種活動の効果を上げるため，学校外部との協働のネットワークを築く役割

上記の学校における校長の4つの役割を参考に，関本小中学校開校に向けての小小連携，小中連携における校長の役割を次のよう考えた。

まず，学校ビジョン構築として，「平成28年度関本小中学校経営基本構想(案)」(資料3)を検討する。その際，小中一貫教育校の理念や茨城県の教育目標，保護者・地域の願い等を考慮して作成する。そして，作成した関本小中学校経営基本構想を関本小中準備委員会で職員に説明し，その基本構想をもとに取り組むことができるようにする。

次に，関本小中学校開校，また関本小中学校経営基本構想の実現に向け，「開校に向けた準備・検討内容」(資料4)を作成し明確にする。それにより，3校職員が，それぞれの部会で協力し合いながら計画的に取り組むことができるようにする。

開校に向けて組織されたそれぞれの部会では，9年間を見通した関本小中学校の具体的な姿や小小連携・小中連携の効果的な在り方を検討していく。

さらに，各検討部員の取り組みの効果をあげるため，本市教育委員会や先進校との連携を密にしていく。

2 国や県・市による小規模校に対する考え方と効果的な小小連携・小中連携の在り方について

(1) 国による小規模校に対する考え方

平成27年1月27日文科科学省から出された「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き ～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」では、学級数や学級当たりの児童生徒数の減少に応じて一層顕在化することが懸念される課題として、以下のように述べられている。

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる，学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協同的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく，授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

特に複式学級となる場合には直接指導（教師が子供たちと直接関わりながら進める指導のこと）と間接指導（一方の学年に教師が直接指導しているとき，他方の学年に学習の進め方を事前に理解させ，子供たちだけで学習を進めさせること）を組み合わせ、複数学年を教員が行き来しながら指導する必要がある場合が多いことから，以下のような課題も生じ得ることが指摘されている。

- ① 教員に特別な指導技術が求められる
- ② 複数学年分や複式教科分の教材研究・指導準備を行うことになるため，教員の負担が大きい
- ③ 単式学級の場合と異なる指導順となる場合，単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある
- ④ 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる
- ⑤ 兄弟姉妹が同じ学級になり，指導上の制約を生ずる可能性がある

そして，上記のことを踏まえて，望ましい学級数を考えた場合，小学校では，まず複式学級を解消するために少なくとも1学年1学級以上（6学級以上）であること，中学校についても，全学年でクラス替えを可能としたり，学級を超えた集団編成を可能としたり，同学年に複数教員を配置するためには，少なくとも1学年2学級以上

(6学級以上)が必要となると述べられている。そして、本手引きの内容を機械的に適用することは適当ではなく、あくまでも各市町村における主体的な検討の参考資料として利用することが望まれるとも述べられている。

また、近年では、子供の発達の早期化やいわゆる中一ギャップへの効果的な対応、学習内容の高度化への対応、学校の社会性育成機能の強化といった観点から、「小中一貫教育」を導入する市町村が増えてきており、学習指導面、生徒指導面、教職員の意識改革面等で顕著な成果が報告されている。特に地域の児童生徒数が少ない場合は、小・中学校段階を一体的に捉えて一定の児童生徒数を確保することにより、学校行事の活性化や多様な学習集団の編成、異年齢交流の機会の大幅な拡大などが可能となり、小規模校での課題である社会性の育成や切磋琢磨する環境の整備、多様な考え方に触れる機会の確保に大きな効果が期待できるとも述べられている。

(2) 茨城県による小規模校についての考え方

茨城県においても、「公立小・中学校の適正規模について(指針)～未来の子どもたちのために～(平成20年4月)茨城県教育委員会」では、「学校においては、児童生徒の社会性の育成及び互いに切磋琢磨する場として一定の規模が必要であるが、急激な少子化の進行に伴い、本県において学校の小規模化や複式学級が増加しており、今後の人口推計からもその傾向は加速していく。」と述べられている。また、「学校の適正規模や適正配置については、設置者である市町村がそれぞれの歴史や地域との関わりを考慮しながら主体的に判断するべきものであるが、県として児童生徒のより良い教育環境や学習環境、人間関係の構築などから望ましい学校の目指すべき姿を示すものである。」と述べ、以下のように示している。

- 小学校においては、クラス替えが可能である各学年2学級以上となる12学級以上が望ましい。
- 中学校においては、クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる9学級以上が望ましい。(国語・社会・数学・理科・英語に複数の教員の配置が可能)

(3) 北茨城市による小規模校についての考え方

「北茨城市立小・中学校の適正規模及び適正配置 一答申一(平成21年1月)北茨城市立小・中学校適正規模等検討委員会」では、「諮問にあたり、教育委員会から当市の児童生徒数は、ピーク時に比べ40パーセント程度減少しており、学校の小規模化が進行している。このことは、教育指導や学校経営にさまざまな影響が生じており、大きな課題となっている。本市としては国の基準や、この4月に茨城県が示した指針を十分理解しながら、北茨城市における望ましい教育環境を創るため、多角的な検討が必要であるとの認識が示された。」と述べられている。そして、北茨城市の望ましい適正規模については、適正規模の基本的な考え方や市民アンケート調査の結果などを参考に検討を加え、次の通りとすると述べられている。

区 分	学 級 数	1学級の児童生徒数
小学校の適正規模	1学年2学級以上 学校規模12学級以上	30人程度

(6学級以上)が必要となると述べられている。そして、本手引きの内容を機械的に適用することは適当ではなく、あくまでも各市町村における主体的な検討の参考資料として利用することが望まれるとも述べられている。

また、近年では、子供の発達の早期化やいわゆる中一ギャップへの効果的な対応、学習内容の高度化への対応、学校の社会性育成機能の強化といった観点から、「小中一貫教育」を導入する市町村が増えてきており、学習指導面、生徒指導面、教職員の意識改革面等で顕著な成果が報告されている。特に地域の児童生徒数が少ない場合は、小・中学校段階を一体的に捉えて一定の児童生徒数を確保することにより、学校行事の活性化や多様な学習集団の編成、異年齢交流の機会の大幅な拡大などが可能となり、小規模校での課題である社会性の育成や切磋琢磨する環境の整備、多様な考え方に触れる機会の確保に大きな効果が期待できるとも述べられている。

(2) 茨城県による小規模校についての考え方

茨城県においても、「公立小・中学校の適正規模について(指針)～未来の子どもたちのために～(平成20年4月)茨城県教育委員会」では、「学校においては、児童生徒の社会性の育成及び互いに切磋琢磨する場として一定の規模が必要であるが、急激な少子化の進行に伴い、本県において学校の小規模化や複式学級が増加しており、今後の人口推計からもその傾向は加速していく。」と述べられている。また、「学校の適正規模や適正配置については、設置者である市町村がそれぞれの歴史や地域との関わりを考慮しながら主体的に判断するべきものであるが、県として児童生徒のより良い教育環境や学習環境、人間関係の構築などから望ましい学校の目指すべき姿を示すものである。」と述べ、以下のように示している。

- 小学校においては、クラス替えが可能である各学年2学級以上となる12学級以上が望ましい。
- 中学校においては、クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる9学級以上が望ましい。(国語・社会・数学・理科・英語に複数の教員の配置が可能)

(3) 北茨城市による小規模校についての考え方

「北茨城市立小・中学校の適正規模及び適正配置 一答申一(平成21年1月)北茨城市立小・中学校適正規模等検討委員会」では、「諮問にあたり、教育委員会から当市の児童生徒数は、ピーク時に比べ40パーセント程度減少しており、学校の小規模化が進行している。このことは、教育指導や学校経営にさまざまな影響が生じており、大きな課題となっている。本市としては国の基準や、この4月に茨城県が示した指針を十分理解しながら、北茨城市における望ましい教育環境を創るため、多角的な検討が必要であるとの認識が示された。」と述べられている。そして、北茨城市の望ましい適正規模については、適正規模の基本的な考え方や市民アンケート調査の結果などを参考に検討を加え、次の通りとすると述べられている。

区 分	学 級 数	1学級の児童生徒数
小学校の適正規模	1学年2学級以上 学校規模12学級以上	30人程度

中学校の適正規模	1 学年 3 学級以上 学校規模 9 学級以上	30 人程度
----------	----------------------------	--------

そして、小規模校の具体的な対応方法として、小規模校の諸課題を解消するために次のような方法が考えられると述べられている。

- | |
|--|
| <p>① 複式学級について
県指針で示されているように、2つの学年で1つの学級編制となる複式学級は、学習環境を充実させるためには大きな課題があると言え、積極的な解消を図ることが必要である。</p> <p>② 複数の学校の統合
統合後の規模や通学距離・時間に大きな支障がない場合には、統合により小規模校の解消を図る。
周囲に近接した学校がなく、通学の負担が大きくなる場合は、スクールバスの運行など通学手段の確保が必要となる。</p> <p>③ 通学区域の再編成
統合後の通学区域に偏りが生じる地域については、通学区域の再編成を行う方法も考えられる。</p> <p>④ 実情に応じた小中一貫教育など
地理的条件や地域的・歴史的な実情に応じて小中一貫教育などにより、小規模校の利点を生かしながら地域に開かれた特色ある学校づくりも必要と考えられる。</p> |
|--|

本校は、今年度は全児童13名、1・2年複式学級3名：1年2名（男1・女1）2年1名（女1）、3・4年複式学級6名：3年3名（男1・女2）4年3名（男2・女1）、6年4名（男2・女2）という状態である。

北茨城市においては、平成17年度児童生徒数が4,613名に対し、平成27年度は3,307名となり、平成17年度に比べ約28.7%減となっている。

そして、複式学級があるのは、北茨城市立石岡小学校、北茨城市立華川小学校そして本校の3校である。

現在、本市では、国や県の動向を踏まえ、地域の実情を考えながら、以下のような小小連携・小中連携、小中一貫教育校の設置に努めている。

- | |
|---|
| <p>平成25年度～：関本小中学校開校に向けた小小連携・小中連携の深化・強化</p> <p>平成26年度～：華川小学校・石岡小学校の「学校間連携チャレンジプラン」（資料1）の実施</p> <p>平成27年度～：「北茨城の小・中一貫教育の推進」（資料2）の実施</p> |
|---|

V 研究の実際

1 関本小中学校開校に向けての校長の役割

平成26年度初めに、関本中学区校長研修会において、「平成28年度 関本小中学校経営基本構想（案）」（資料3）の作成に取りかかった。作成にあたっては、小中一貫教育校の理念、茨城県の教育目標、いばらき教育プラン、北茨城市の教育プラン、保護者や地域の願い、関本中学区の児童生徒の実態を考慮して作成した。

次に、「開校に向けた準備・検討内容」（資料4）の作成に取りかかった。校長部会、教頭部会、教務部会、創造推進部会、敬愛推進部会、自立推進部会、特色ある教育活動検討部会をつくり、検討内容・検討期限を明確にした。3校それぞれの検討部員が部長を中心に連絡を取り合いながら検討する姿が見られた。

また、検討を進めるにあたり明確になってきた課題については、本市教育委員会と連携をとったり、先進校である水戸市立国田小中学校や常陸太田市立里美小中学校に関係職員が視察に行ったり、先進校職員を講師に招き、3校の職員が話を聞く機会を設けたりするなど、解決に向けたネットワークの構築にも努めた。

2. 関本中学区での具体的な取り組みと校長の役割

(1) 小小連携（富士ヶ丘小学校と関本第一小学校との連携）

平成28年度から本校と関本第一小学校が一緒になり、関本小学校となるため、関本小学校への円滑な移行や、現在の小規模校のデメリットに対しての対策等を考慮して取り組む。

具体的には、関本第一小学校との合同授業、合同での校外学習、合同での学校行事を次のように行った。

【関本第一小学校との合同授業】

関本第一小学校と日程や授業の進捗等を調整しながら行った。平成26年度は、3時間程度の実施であったが、平成27年度は、実施時間を長くし、遊びの時間や給食の時間も一緒に生活できるようにした。

平成26年度

月日	実施学年	実施場所	主な実施内容	
10/16	3学年	富士ヶ丘小学校	2校時：学級活動 「構成的グループエンカウンターで仲良くなろう」 3校時：体育 4校時：算数 昼食・昼休み その後帰校	
11/5	1・2学年	関本第一小学校	1年	2年
			2校時：学級活動 「構成的グループエンカウンターで仲良くなろう」	
			3校時：算数	3校時：国語
			4校時：体育	
12/2	5・6学年	関本第一小学校	5年	6年
			2校時：学級活動 「構成的グループエンカウンターで仲良くなろう」	
			3校時：音楽	3校時：理科
			4校時：体育	

次に、「開校に向けた準備・検討内容」（資料4）の作成に取りかかった。校長部会、教頭部会、教務部会、創造推進部会、敬愛推進部会、自立推進部会、特色ある教育活動検討部会をつくり、検討内容・検討期限を明確にした。3校それぞれの検討部員が部長を中心に連絡を取り合いながら検討する姿が見られた。

また、検討を進めるにあたり明確になってきた課題については、本市教育委員会と連携をとったり、先進校である水戸市立国田小中学校や常陸太田市立里美小中学校に関係職員が視察に行ったり、先進校職員を講師に招き、3校の職員が話を聞く機会を設けたりするなど、解決に向けたネットワークの構築にも努めた。

2 関本中学区での具体的な取り組みと校長の役割

(1) 小小連携（富士ヶ丘小学校と関本第一小学校との連携）

平成28年度から本校と関本第一小学校が一緒になり、関本小学校となるため、関本小学校への円滑な移行や、現在の小規模校のデメリットに対する対策等を考慮して取り組む。

具体的には、関本第一小学校との合同授業、合同での校外学習、合同での学校行事を次のように行った。

【関本第一小学校との合同授業】

関本第一小学校と日程や授業の進度等を調整しながら行った。平成26年度は、3時間程度の実施であったが、平成27年度は、実施時間を長くし、遊びの時間や給食の時間も一緒に生活できるようにした。

平成26年度

月日	実施学年	実施場所	主な実施内容	
10/16	3学年	富士ヶ丘小学校	2校時：学級活動 「構成的グループエンカウンターで仲良くなろう」 3校時：体育 4校時：算数 昼食・昼休み その後帰校	
11/5	1・2学年	関本第一小学校	1年	2年
			2校時：学級活動 「構成的グループエンカウンターで仲良くなろう」	
			3校時：算数	3校時：国語
			4校時：体育	
12/2	5・6学年	関本第一小学校	5年	6年
			2校時：学級活動 「構成的グループエンカウンターで仲良くなろう」	
			3校時：音楽	3校時：理科
			4校時：体育	

平成27年度（9月末まで）

月日	実施学年	実施場所	主な実施内容	
5/12	6学年	関本第一小学校	2校時：学級活動 「構成的グループエンカウンターで仲良くなろう」 3校時：学級活動「歯磨き教室」 4校時：算数 5校時：音楽 6校時：体育	
5/26	3・4学年	関本第一小学校	3年	4年
			2校時：学級活動「歯磨き教室」 3校時：総合 4校時：総合 5校時：社会 6校時：体育	3校時：音楽 4校時：総合 5校時：総合 6校時：体育
5/29	4学年 ※3年は校外学習	関本第一小学校	1校時：国語 3校時：図工 5校時：算数	2校時：社会 4校時：総合 6校時：体育
6/5	3学年 ※4年は校外学習	関本第一小学校	1校時：国語 3校時：体育 5校時：国語	2校時：図工 4校時：算数
6/24	1・2学年	関本第一小学校	1年	2年
			2校時：学級活動 「構成的グループエンカウンターで仲良くなろう」 3・4校時：体育「水泳学習」	
			5校時：国語	5校時：国語



高学年の授業の様子



中学年の遊び時間の様子

【関本第一小学校との合同での校外学習】

平成26年度

月日	実施学年	実施場所
5/29	3学年	北茨城市内一周

平成27年度（9月末まで）

月日	実施学年	実施場所
5/21	1・2学年	日立シビックセンター
5/29	3学年	北茨城市内一周
6/5	4学年	水戸市方面
7/6	4学年	北茨城市消防本部



1・2学年の校外学習の様子

3学年の北茨城市内一周の様子

【関本第一小学校との合同での行事】

平成26年度

月日	実施学年	実施場所	行事名
6/11	5・6学年	関本第一小学校	薬物乱用防止教室
10/8	5・6学年	関本第一小学校	陸上記録会合同練習
11/18	全学年	関本第一小学区	持久走大会
2/5	全学年	関本第一小学校	縄跳び大会

平成27年度（9月末まで）

月日	実施学年	実施場所	行事名
7/14	6学年	関本第一小学校	喫煙防止教育

※ 他、平成26年度と同様に、陸上記録会合同練習、持久走大会、縄跳び大会を計画

本校の児童は、普段の授業において、話し合いによる学習内容の深まりや広がりが見えにくいところがある。しかし、合同授業により、いろいろな場面で多様な意見を聞くことができ、刺激を受けていたようである。また、給食や遊びの時間に一緒に過ごすことで、心の交流も深まってきている様子が見られる。

陸上記録会の合同練習や、持久走大会、縄跳び大会でも、多くの児童と競い合うことにより、以前よりも競技に参加する意欲や自分の目標の成績に到達できるように頑張る姿が見られた。

平成27年度（9月末まで）

月日	実施学年	実施場所
5/21	1・2学年	日立シビックセンター
5/29	3学年	北茨城市内一周
6/5	4学年	水戸市方面
7/6	4学年	北茨城市消防本部



1・2学年の校外学習の様子



3学年の北茨城市内一周の様子

【関本第一小学校との合同での行事】

平成26年度

月日	実施学年	実施場所	行事名
6/11	5・6学年	関本第一小学校	薬物乱用防止教室
10/8	5・6学年	関本第一小学校	陸上記録会合同練習
11/18	全学年	関本第一小学区	持久走大会
2/5	全学年	関本第一小学校	縄跳び大会

平成27年度（9月末まで）

月日	実施学年	実施場所	行事名
7/14	6学年	関本第一小学校	喫煙防止教育

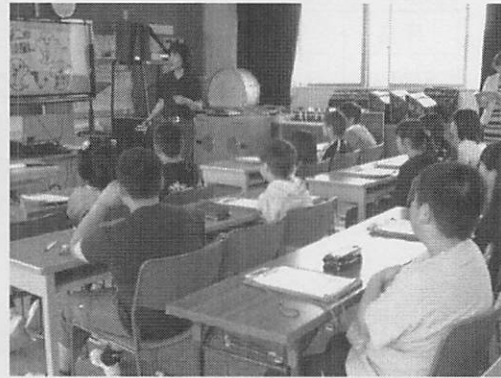
※ 他、平成26年度と同様に、陸上記録会合同練習、持久走大会、縄跳び大会を計画

本校の児童は、普段の授業において、話し合いによる学習内容の深まりや広がりが見えにくいところがある。しかし、合同授業により、いろいろな場面で多様な意見を聞くことができ、刺激を受けていたようである。また、給食や遊びの時間に一緒に過ごすことで、心の交流も深まってきている様子が見られる。

陸上記録会の合同練習や、持久走大会、縄跳び大会でも、多くの児童と競い合うことにより、以前よりも競技に参加する意欲や自分の目標の成績に到達できるように頑張る姿が見られた。



合同縄跳び大会の様子



薬物乱用防止教室の様子

(2) 小中連携（関本第一小学校・富士ヶ丘小学校と関本中学校との連携）

小中一貫教育校に向けて、児童が中学校との関わりを多くもてるように、中学校教員の専門性を生かした英語の出前授業や中学生からの技術的な指導を得られる機会として陸上記録会合同練習、学びの広場で中学生が算数を教える機会等を設けている。

また、小中合同の地域防災訓練・あいさつ運動、小学校の運動会での中学校教員の飛び入り参加・中学校の体育祭での小学生の参加など一緒に活動する機会も設けている。

いろいろな機会を利用して連携を進めることで、児童生徒・教職員の交流も深まり、保護者・地域の小中連携の理解も深まってきている。

これらの連携を行うために、3校の校長の共通理解のもと、定期的に教務主任での準備会を開催したり常に連絡を密にしている。

平成26年度

月日	実施学年	実施場所	行事名
10/8	5・6学年	関本第一小学校	陸上記録会合同練習
11/19	全児童	富士ヶ丘小学校	あいさつ運動
12/13	全児童	関本中学校	地域防災訓練・引き渡し訓練
2/5	5・6学年	関本第一小学校	英語の出前授業

平成27年度

※ 平成26年度と同様の行事を計画



地域防災訓練の様子



陸上記録会合同練習の様子

その他の活動

関本中学校の生徒のノートをそれぞれの小学校で紹介する機会を設けた。高学年等

の児童には、自分のノートと比べながら見ている姿が見られた。

<ノート展>

平成26年度

1/19(月)～26(月) 関本第一小学校

1/27(火)～2/3(火) 富士ヶ丘小学校

一方、児童は、運動会での中学校教員の飛び入り参加の様子等から、中学校の教員に対し親しみを感じたようである。中学校教員や中学生と関わる機会を多くつくることで、中学校への進学への不安は少なくなったようである。今年の中学1年生においても、元気に通学し、今年度の学びの広場でも元気な姿を見せてくれている。

【関本中学区小中連携による相互授業参観】

訪問指導等の際に、互いに訪問し授業を参観した。また、時間がある場合には、その後の分科会にも参加した。

平成26年度

月日	実施場所	備考
6/24	関本第一小学校	北茨城市計画訪問Ⅰ
6/26	富士ヶ丘小学校	北茨城市計画訪問Ⅰ
9/29	富士ヶ丘小学校	校内研修支援事業
10/22	関本中学校	北茨城市計画訪問Ⅰ
11/28	関本第一小学校	北茨城市計画訪問Ⅱ
12/4	関本中学校	北茨城市計画訪問Ⅱ
2/19	富士ヶ丘小学校	校内研修支援事業

平成27年度

月日	実施場所	備考
6/2	関本第一小学校	北茨城市計画訪問Ⅰ
6/19	関本中学校	校内研修支援事業
9/28	富士ヶ丘小学校	校内研修支援事業
10/2	関本第一小学校	要請訪問
10/14	関本中学校	北茨城市計画訪問Ⅰ

それぞれの校種の授業を参観することにより、それぞれの良さを知るとともに、小中一貫教育校に向けて、学習指導等で共通理解をしていなければならない点などを明確にすることができた。また、児童生徒の実際の授業の様子を観察することにより、児童生徒の生徒理解をする上でも大切な機会となった。



公開授業の様子



公開授業の様子

の児童には、自分のノートと比べながら見ている姿が見られた。

<ノート展>

平成26年度

1/19(月)～26(月) 関本第一小学校

1/27(火)～2/3(火) 富士ヶ丘小学校

一方、児童は、運動会での中学校教員の飛び入り参加の様子等から、中学校の教員に対し親しみを感じたようである。中学校教員や中学生と関わる機会を多くつくることで、中学校への進学への不安は少なくなったようである。今年の中学1年生においても、元気に通学し、今年度の学びの広場でも元気な姿を見せてくれている。

【関本中学区小中連携による相互授業参観】

訪問指導等の際に、互いに訪問し授業を参観した。また、時間がある場合には、その後の分科会にも参加した。

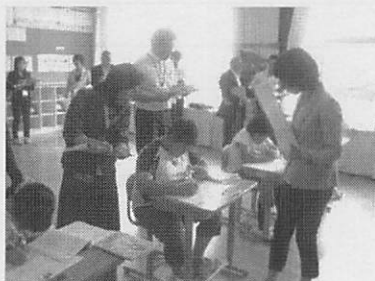
平成26年度

月日	実施場所	備考
6/24	関本第一小学校	北茨城市計画訪問Ⅰ
6/26	富士ヶ丘小学校	北茨城市計画訪問Ⅰ
9/29	富士ヶ丘小学校	校内研修支援事業
10/22	関本中学校	北茨城市計画訪問Ⅰ
11/28	関本第一小学校	北茨城市計画訪問Ⅱ
12/4	関本中学校	北茨城市計画訪問Ⅱ
2/19	富士ヶ丘小学校	校内研修支援事業

平成27年度

月日	実施場所	備考
6/2	関本第一小学校	北茨城市計画訪問Ⅰ
6/19	関本中学校	校内研修支援事業
9/28	富士ヶ丘小学校	校内研修支援事業
10/2	関本第一小学校	要請訪問
10/14	関本中学校	北茨城市計画訪問Ⅰ

それぞれの校種の授業を参観することにより、それぞれの良さを知るとともに、小中一貫教育校に向けて、学習指導等で共通理解をしていなければならない点などを明確にすることができた。また、児童生徒の実際の授業の様子を観察することにより、児童生徒の生徒理解をする上でも大切な機会となった。



公開授業の様子



公開授業の様子

【関本地区校長研修会】

平成26年度

月日	主な協議内容
5/30	関本小中学校経営基本構想（案），開校に向けた準備・内容について
6/6	関本小中学校経営基本構想（案），開校に向けた準備・内容について
6/30	関本小中学校経営基本構想（案），開校に向けた準備・内容について
7/23	関本小中学校経営基本構想（案），開校に向けた準備・内容について
12/16	協議会の名称について，特色ある教育活動検討部会について
2/18	平成26年度の振り返りと平成27年度に向けて

平成27年度（9月末まで）

月日	主な協議内容
5/15	昨年度の研修内容の確認と今年度の方向性の確認
6/26	次回の関本小中準備委員会について
8/20	日課表，校務分掌の検討

研修会だけではなく，常に3人の校長間で連絡を密に取り合い，共通理解をもって進めることができた。

【関本小中準備委員会の開催】

関本小中学校開校に向けて，今後の準備，検討内容が確認された。「平成28年度関本小中学校経営基本構想（案）」（資料3），「開校に向けた準備・検討内容」（資料4）について，具体的施策・「9年間を見通した教育活動」（資料5），特色ある教育活動などを準備委員会で検討した。事前に3校の教務主任が集まり，日程や研修内容等を検討した。関本地区校長会としては，準備委員会がスムーズに進行できるように教務主任等に指導・助言をした。

平成26年度

月日	主な内容等
8/19	小中一貫教育校に向けて，（仮）創造・敬愛・自立 各推進部分科会
10/10	教務主任研修視察（水戸市立国田小中学校）
10/17	平成28年度関本小中学校経営基本構想の検討
11/10	具体的施策・「9年間を見通した教育活動」作成
12/1	各推進部会で施策・特色ある教育活動等について検討
1/13	部長会議（特色ある教育活動の検討）
2/2	各推進部会で協議
2/24	各専門部
2/25	各専門部
2/26	各専門部

平成27年度

月日	主 な 内 容 等
6/26	第1回 昨年度までの策定事項の確認, 教科推進部協議
7/24	第2回 国田小学校 秦野先生の講話, 3校による懇親会
7/27	学校事務職員視察 (常陸太田市立里美小中学校)
7/31	第3回 領域推進部協議
8/20	第4回 教科指導計画 協議・完成
9/30	第5回 領域推進部からの報告 (9年間の指導計画)
10月	第6回 3校主催 保護者説明会

【関本町小中一貫教育校設置協議会 (市教育委員会) の開催】

この協議会は, 小中一貫教育校の開校を円滑に推進するために設置された。

組織は, 対象校の校長及び教職員, 対象校のPTAの代表, 対象校通学区内に存する自治会の代表, 市議会議員, 教育委員会教育次長, その他協議会が必要と認める者で25名で組織されている。校舎設計や学校名, 校歌, 校章, 制服, 通学手段等について検討してきた。

平成25年度

月日	主 な 協 議 内 容
7/3	委員の委嘱, 関本町小中一貫教育校の設置について
8/1	関本町小中一貫教育校校舎建設及び施設整備について
8/29	小中施設一体型校舎等基本設計について
9/24	校舎建設及び施設整備変更 (案), 関本地区小中一貫教育校に関する意見・要望について
11/27	校舎建設及び施設整備, 通学の安全確保, 通学手段について

平成26年度

月日	主 な 協 議 内 容
5/29	委員の委嘱, 学校名・校歌・校章・制服等に関するアンケート結果報告, 学校名, 校歌, 校章, 制服等について
8/29	校章図案, 「平成28年度 関本小中学校経営基本構想 (案)」 (資料3) について
2/5	関本小中一貫校校舎建設の進捗状況, 校章図案, 体操着, 関本小中学校経営基本構想案について

平成27年度

月日	主 な 協 議 内 容
6/22	委員の委嘱, 関本小学校・関本中学校の通称名, 通学手段について
2学期	最終まとめ

(3) 校長の役割

「平成28年度 関本小中学校経営基本構想 (案)」 (資料3) や「9年間を見通した教育活動」 (資料5) を検討・作成し, 共通理解が図られるように職員に説明することで, 関本小中学校が具体的な姿となって理解できるようになってきた。また, 関本小

平成27年度

月日	主な内容等
6/26	第1回 昨年度までの策定事項の確認, 教科推進部協議
7/24	第2回 国田小学校 秦野先生の講話, 3校による懇親会
7/27	学校事務職員視察 (常陸太田市立里美小中学校)
7/31	第3回 領域推進部協議
8/20	第4回 教科指導計画 協議・完成
9/30	第5回 領域推進部からの報告 (9年間の指導計画)
10月	第6回 3校主催 保護者説明会

【関本町小中一貫教育校設置協議会 (市教育委員会) の開催】

この協議会は、小中一貫教育校の開校を円滑に推進するために設置された。

組織は、対象校の校長及び教職員、対象校のPTAの代表、対象校通学区内に存する自治会の代表、市議会議員、教育委員会教育次長、その他協議会が必要と認める者で25名で組織されている。校舎設計や学校名、校歌、校章、制服、通学手段等について検討してきた。

平成25年度

月日	主な協議内容
7/3	委員の委嘱, 関本町小中一貫教育校の設置について
8/1	関本町小中一貫教育校校舎建設及び施設整備について
8/29	小中施設一体型校舎等基本設計について
9/24	校舎建設及び施設整備変更 (案), 関本地区小中一貫教育校に関する意見・要望について
11/27	校舎建設及び施設整備, 通学の安全確保, 通学手段について

平成26年度

月日	主な協議内容
5/29	委員の委嘱, 学校名・校歌・校章・制服等に関するアンケート結果報告, 学校名, 校歌, 校章, 制服等について
8/29	校章図案, 「平成28年度 関本小中学校経営基本構想 (案)」 (資料3) について
2/5	関本小中一貫校校舎建設の進捗状況, 校章図案, 体操着, 関本小中学校経営基本構想案について

平成27年度

月日	主な協議内容
6/22	委員の委嘱, 関本小学校・関本中学校の通称名, 通学手段について
2学期	最終まとめ

(3) 校長の役割

「平成28年度 関本小中学校経営基本構想 (案)」 (資料3) や「9年間を見通した教育活動」 (資料5) を検討・作成し, 共通理解が図られるように職員に説明することで, 関本小中学校が具体的な姿となって理解できるようになってきた。また, 関本小

中学校の開校に向けて準備を進めるにつれて、さらに検討しなければならない課題や確認しなければならない内容が見えてきた。その都度、3校の校長が検討し、共通理解した上で、職員に伝えるようにしている。

また、本市教育委員会と連携をとったり、先進校である水戸市立国田小中学校や常陸太田市立里美小中学校と連携をとり、視察や研修会の機会を設けたりした。

小小連携・小中連携を進めるにあたり、ねらいが効果的に達成できるように、3校の校長が常に共通理解のもと、教務主任を中心にそれぞれの年間行事等と照らし合わせながら内容や時間調整を行う機会を設けている。

保護者や地域の方々に児童生徒や学校への願いや思いをアンケートにより調査したり、準備状況を説明する機会を設けたりして働きかけることにより、理解や協力を得るようにしている。

3 北茨城市の取り組み

(1) 児童生徒・学級数の推移

本市の児童生徒数・学級数は下記のように推移している。

学区	学校名	児童・生徒数（学級数）		
		平成17年度	平成22年度	平成27年度
中郷中	中郷第一小	492 (15・0)	511 (16・1)	537 (17・2)
	中郷第二小	275 (6・1)	214 (6・1)	165 (6・1)
	石岡小	132 (6・0)	70 (6・0)	36 (4・0)
	中郷中	519 (15・0)	433 (13・0)	398 (12・0)
	小計	1,418 (42・1)	1,228 (41・2)	1,136 (39・3)
磯原中	精華小	600 (18・4)	489 (14・2)	429 (14・2)
	明德小	276 (11・0)	217 (8・0)	203 (7・1)
	磯原中	443 (12・1)	431 (13・1)	341 (10・1)
	小計	1,319 (41・5)	1,137 (35・3)	973 (31・4)
華川中	中妻小	204 (6・1)	164 (6・2)	125 (6・2)
	華川小	75 (6・0)	61 (6・0)	49 (5・0)
	華川中	165 (6・0)	124 (5・1)	68 (3・2)
	小計	444 (18・1)	349 (17・3)	242 (14・4)
常北中	大津小	258 (10・2)	218 (7・2)	147 (6・4)
	関南小	212 (8・0)	187 (6・1)	158 (6・1)
	平潟小	225 (7・0)	206 (6・1)	186 (6・1)
	常北中	406 (11・1)	335 (9・1)	299 (9・2)
	小計	1,101 (36・3)	946 (28・5)	790 (27・8)
関本中	関本第一小	142 (6・0)	115 (6・0)	95 (6・0)
	富士ヶ丘小	90 (6・0)	46 (4・1)	13 (3・0)
	関本中	99 (3・0)	103 (4・0)	58 (3・0)
	小計	331 (15・0)	264 (14・1)	166 (12・0)
	合計	4,613 (152・10)	3,924 (135・14)	3,307 (123・19)

※ 児童・生徒数は、その年度の5月1日現在の数

※ 学級数は、（通常の学級数・特別支援学級数）

今年度、中郷第一小学校は、平成17年度に比べ児童は9.1%増加しているが、他の学校は、平成17年度と比べ減少の傾向にある。特に、石岡小学校は72.7%減、関本地区は全体で49.8%減、華川地区は全体で45.5%減となっている。

そのような状況の下、北茨城市では、「北茨城の小・中一貫教育の推進」(資料2)として、各中学校区では、以下のように小小連携・小中連携を行っている。

(2) 取り組み状況

本市は、各中学区において小小連携・小中連携を下記のように取り組んでいる。

中郷 中学区	小小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業(計画訪問等)の相互授業参観 ・教育活動の情報交換(4校PTA全体協議会において各学校の教育活動の紹介) ・学区内の北茨城特別支援学校と年2回の交流会を実施 (1回目は中郷第二小で歌, ゲーム, 感想発表等) (2回目は特別支援学校で出し物発表, ゲーム, 合同ダンス, 感想発表等)
	中郷第二小	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の共通問題の作成 ・テレビ会議システムを活用した共同授業 ・学校間連携チャレンジプラン(華川小と石岡小)
	石岡小	
小中連携	<p>ア 円滑な接続の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生説明会(授業参観・部活動参観)の実施 ・生活指導資料の交換と共通理解 <p>イ 学力向上の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の「学びの広場」に中学生サポーターの派遣(2回) ・中学校教師(英語)の小学校における授業(外国語活動)の実施 ・家庭学習強調週間の実施(中学校の中間テスト及び期末テストと小学校漢字力テスト, 計算力テストの実施日を合わせ, 兄弟が家庭学習に取り組みやすい環境をつくる。) ・小学校の陸上記録会に向けての練習会に中学校の陸上部の生徒が参加(技術指導のサポートをする。) <p>ウ 豊かな心の育成・生徒指導の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さわやかマナーアップの一斉指導 ・ボランティア組織「NAKAGOU すこやかサポーター」を4校で統合し, 子供の交通安全・不審者対応等の共通実践 <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の連携による一斉下校指導(年5回) 	

精華小	<ul style="list-style-type: none"> ・「県学力診断のためのテスト」の力試しテスト ※共通問題により6学年で実施 ・授業の相互参観
-----	---

今年度、中郷第一小学校は、平成17年度に比べ児童は9.1%増加しているが、他の学校は、平成17年度と比べ減少の傾向にある。特に、石岡小学校は72.7%減、関本地区は全体で49.8%減、華川地区は全体で45.5%減となっている。

そのような状況の下、北茨城市では、「北茨城の小・中一貫教育の推進」（資料2）として、各中学校区では、以下のように小小連携・小中連携を行っている。

(2) 取り組み状況

本市は、各中学区において小小連携・小中連携を下記のように取り組んでいる。

中郷 中学区	小小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（計画訪問等）の相互授業参観 ・教育活動の情報交換（4校PTA全体協議会において各学校の教育活動の紹介） ・学区内の北茨城特別支援学校と年2回の交流会を実施 （1回目は中郷第二小で歌、ゲーム、感想発表等） （2回目は特別支援学校で出し物発表、ゲーム、合同ダンス、感想発表等） ・基礎学力の共通問題の作成 ・テレビ会議システムを活用した共同授業 ・学校間連携チャレンジプラン（華川小と石岡小）
	小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ア 円滑な接続の観点から <ul style="list-style-type: none"> ・新入生説明会（授業参観・部活動参観）の実施 ・生活指導資料の交換と共通理解 イ 学力向上の観点から <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の「学びの広場」に中学生サポーターの派遣（2回） ・中学校教師（英語）の小学校における授業（外国語活動）の実施 ・家庭学習強調週間の実施（中学校の中間テスト及び期末テストと小学校漢字力テスト、計算力テストの実施日を合わせ、兄弟が家庭学習に取り組みやすい環境をつくる。） ・小学校の陸上記録会に向けての練習会に中学校の陸上部の生徒が参加（技術指導のサポートをする。） ウ 豊かな心の育成・生徒指導の観点から <ul style="list-style-type: none"> ・さわやかマナーアップの一斉指導 ・ボランティア組織「NAKAGOU すこやかサポーター」を4校で統合し、子供の交通安全・不審者対応等の共通実践 エ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・学区の連携による一斉下校指導（年5回）

精華小	<ul style="list-style-type: none"> ・「県学力診断のためのテスト」の力試しテスト ※共通問題により6学年で実施 ・授業の相互参観
-----	--

磯原 中学区	連携	明徳小	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーテレビ・ノーゲームデーを毎月位置づけ（毎月10日） ※小中もあり
	小中連携	磯原中	<p>ア 円滑な接続の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による「6年生を送る会」への参加 ・個人カルテの作成（情報を共有） ・情報共有（善行青少年なども含む） <p>イ 学力向上の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中教員による相互交流（授業参観等） ・小中教務主任による県学力診断テストの国語，算数・数学の躓きの分析から指導法の工夫・改善（9年間の学びの保証） ・中学校教員の専門性を生かした小学校での授業（英語や陸上指導） ・9年間を見通した「家庭学習の手引き」の作成 ・小学校「学びの広場」での中学生の学習支援（リトルティチャー） ・家庭学習強調週間 <p>ウ 豊かな心の育成・生徒指導の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学1年生が母校の小学校卒業式への祝いのメッセージを作成 <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区の小中教員の合同研修会

華川 中学区	小中連携	中妻小	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上記録会練習会の合同実施 ・4年生社会科校外学習の合同実施 ・研究授業の相互参観 ・夏季研修会の合同実施 ・各種連絡会議・研修会の開催（校長会，教務主任会，特別支援・アレルギーに係る会議）
		華川小	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の交流：陸上記録会合同練習，相互の祭りへの参加 ・職員の交流：相互授業参観（計画訪問），学区研修会（アレルギー，特別支援） ・NOゲームNOテレビデーの取り組み 【チャレンジプラン】 ・合同授業（全学年で交流，教科・学級活動，各学年年間12時間の計画） ・職員研修（合同での指導案作成，児童の授業評価に基づく検証・改善）
	小中連携	華川中	<p>ア 円滑な接続の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校文化祭への6年生の参加 ・中学校入学を控えての6年生による中学校体験学習 ・児童生徒の交流：陸上記録会練習，学びの広場，華小祭り，子供会行事 ・運動会相互訪問 <p>イ 学力向上の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育での相互出前授業（外国語活動←→外国語科）

		<ul style="list-style-type: none"> ・図工，音楽での中学校教員の出前授業 ・学びの広場への中学生派遣 ・研究授業の相互参観 ・「学びの広場」への中学生講師派遣 ・小学6年生を体育祭種目へ招待 ・文化祭相互参観，中学校文化祭への小学生参加 ・出前授業 英語・外国語活動（小←→中），理科・美術・音楽（小←→中） ・家庭学習強調週間，NOゲームデー，学習の決まり <p>ウ 豊かな心の育成・生徒指導の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーアップ運動，生活の決まり <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭，運動会への校長による訪問 ・職員の交流：相互授業参観（計画訪問），学区研修会（アレルギー，特別支援） ・家庭・地域連携：NOゲームNOテレビデーの取り組み，三校研修会 ・卒業式相互出席 ・各種連絡会議（校長連絡会議，教務主任連絡会議，特別支援教育連絡会議） ・文化芸術による子供の育成事業合同開催
--	--	--

常北 中学区	小 小 連 携	大 津 小 関 南 小 平 潟 小	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携で行っているものが，結果として小小連携としても実施 ・運動会招待リレー，夢ノートの採用，市計画訪問の相互授業参観 ・中学校入学前の授業参観，学区小学校合同授業 ・家庭学習強調週間の設定 ・職員の研修会の実施 ・あいさつ運動や家庭学習強調週間などの共通行事の実施
	小 中 連 携	常 北 中	<p>ア 円滑な接続の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校体験学習（英語・理科・体育） 2月中学校で ・6年生の授業参観後の入学生の引き継ぎ 3月小学校で ・1年生の授業参観後の情報交換 5月中学校で ・体育祭における小6の招待リレー 9月中学校で <p>イ 学力向上の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年間の学びの素地一覧表の活用 ・学区統一した家庭学習強調週間の設定（学期1回） ・小学校「学びの広場」や陸上練習へサポーターとして母校へ中1等の参加 ・小中学校授業の相互参観（計画訪問時等） ・小学校陸上記録会合同練習会，中学生による指導

		<ul style="list-style-type: none"> ・図工，音楽での中学校教員の出前授業 ・学びの広場への中学生派遣 ・研究授業の相互参観 ・「学びの広場」への中学生講師派遣 ・小学6年生を体育祭種目へ招待 ・文化祭相互参観，中学校文化祭への小学生参加 ・出前授業 英語・外国語活動（小←→中），理科・美術・音楽（小←→中） ・家庭学習強調週間，NOゲームデー，学習の決まり <p>ウ 豊かな心の育成・生徒指導の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナーアップ運動，生活の決まり <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭，運動会への校長による訪問 ・職員の交流：相互授業参観（計画訪問），学区研修会（アレルギー，特別支援） ・家庭・地域連携：NOゲームNOテレビデーの取り組み，三校研修会 ・卒業式相互出席 ・各種連絡会議（校長連絡会議，教務主任連絡会議，特別支援教育連絡会議） ・文化芸術による子供の育成事業合同開催
--	--	--

常北中学区	小 小 連 携	大津小 関南小 平潟小	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携で行っているものが，結果として小小連携としても実施 運動会招待リレー，夢ノートの採用，市計画訪問の相互授業参観 中学校入学前の授業参観，学区小学校合同授業 ・家庭学習強調週間の設定 ・職員の研修会の実施 ・あいさつ運動や家庭学習強調週間などの共通行事の実施
	小 中 連 携	常北中	<p>ア 円滑な接続の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校体験学習（英語・理科・体育） 2月中学校で ・6年生の授業参観後の入学生の引き継ぎ 3月小学校で ・1年生の授業参観後の情報交換 5月中学校で ・体育祭における小6の招待リレー 9月中学校で <p>イ 学力向上の観点から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年間の学びの素地一覧表の活用 ・学区統一した家庭学習強調週間の設定（学期1回） ・小学校「学びの広場」や陸上練習へサポーターとして母校へ中1等の参加 ・小中学校授業の相互参観（計画訪問時等） ・小学校陸上記録会合同練習会，中学生による指導

	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業
ウ	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな心育成・生徒指導の観点から ・母校でのあいさつ運動やボランティア活動（学期に1回） ・学区内小学校との合同夜間巡視活動（青少年相談員・PTAと教職員合同） ・中学生による母校（小学校）クリーン作戦
エ	<ul style="list-style-type: none"> その他 ・学区内夏季研修会（H26ワークショップで児童生徒のよさと課題分析） ・校長・教頭・教務主任3者懇親会 ・「夢ノート 9年間の活用」 ・大津地区PTA連絡協議会及び生徒指導連絡協議会 ・部活動を指導可能な小学校の職員を中学校へ派遣 ・3校連絡協議会、懇親会（PTA）

VI 研究の成果と今後の課題

1 関本中学校区での小小連携・小中連携の取り組みから

(1) 研究の成果

- ・ 3校の校長が関本中学区校長研修会等で「平成28年度 関本小中学校経営基本構想（案）」（資料3）をつくり、関本小中準備委員会等で説明することで、3校の職員は方向性を確認できた。
- ・ 「開校に向けた準備・検討内容」（資料4）をつくり、関本小中準備委員会で全職員で確認することで、それぞれの職員が検討しなければならない内容や検討期限を明確にすることができ、それぞれの部会長を中心に取り組むことができた。
- ・ 3校の職員が協働することで、職員間の連携を深めることができています。
- ・ 先進校である水戸市立国田小中学校や常陸太田市立里美小中学校への視察や水戸市立国田小中学校の職員を講師に招き研修する機会を設けたことは、検討中の課題等を解決するのに効果的であった。
- ・ 小小連携・小中連携を計画し実践する機会を設けることは、教員にとっては教育力や多様な学びのスタイルを相互に共有しあう場となり、指導力向上に効果がみられた。
- ・ 児童生徒にとっては、連携による交流を通して学習活動の深まりと広がりにも効果がみられた。
- ・ 教員にとっては、児童生徒の主体性や積極性、望ましい競争心を育てるのに小小連携・小中連携は効果的である。
- ・ 相互授業参観は児童生徒の理解につながり、生徒指導等に役立てることができている。
- ・ 児童生徒の人間関係が深まっただけでなく、児童生徒と職員の間人間関係を深めることができています。

(2) 今後の課題

- ・ 子供の教育を充実させるための中学区での小小連携・小中連携の効果的な連携の在り方をさらに研究していく必要がある。

- ・ 小小連携・小中連携の必要性を職員に十分認識させていく意識改革は、今後も引き続き進めていく必要がある。
- ・ 小小連携・小中連携に取り組むにあたり、時間を確保する方法を工夫していく必要がある。

2 北茨城市内小小連携・小中連携の取り組みから

(1) 研究の成果

- ・ 校長のリーダーシップのもと、小中学校の教員が相互授業参観をすることで、子供の実態（発達段階）や小中学校の授業形態等を理解し合うことができ、一貫した指導が図られつつある。
- ・ 校長のリーダーシップのもと、小小連携・小中連携を学校運営の大きな柱の一つとして取り組むことができはじめている。
- ・ 子供の学びを義務教育9年間で考えることは合理的であり効果的である。学びの連続性が形成されてきている。
- ・ 学校間が連携することにより、教員の教育力を高めたり、多様な学びのスタイルの実践が可能になったりしてきている。

(2) 今後の課題

- ・ 移動時間や移動方法等、物理的な問題がある。単発での交流は可能でも、継続的な交流は難しく、限界がある。
- ・ 校長のリーダーシップが大切になってくるので、中学区の校長同士が共通理解を図ることが大切である。
- ・ 成果がすべて目に見えるような形ではないため、検証の仕方が難しい。

【参考文献】

- ・ 小中連携、一貫教育に関する主な意見等の整理【概要】
平成24年9月 文部科学省 中央教育審議会初等中等教育分科会
学校段階間の連携接続等に関する作業部会
- ・ 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き
～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～
平成27年1月27日 文部科学省
- ・ 公立小・中学校の適正規模について（指針）～未来の子どもたちのために～
平成20年4月 茨城県教育委員会
- ・ 北茨城市立小・中学校の適正規模及び適正配置について —— 答申 ——
平成21年1月 北茨城市立小・中学校適正規模等検討委員会
- ・ 北茨城市小・中学校再編計画に関する提言書
平成22年4月 北茨城市小中学校再編計画検討委員会
- ・ 関本町小中一貫教育校設置基本方針
(関本第一小学校・富士ヶ丘小学校・関本中学校の一体化)
平成24年12月 北茨城市教育委員会
- ・ 平成23年度教職員等中央研修【校長向け】学校組織マネジメントⅠ
学校ビジョンと戦略
浅野良一（兵庫教育大学）

小規模校同士による小小連携・交流を生かした学校経営の取組
～「学校間連携チャレンジプラン」の実践を通して～

北茨城市立石岡小学校
北茨城市立華川小学校

1 はじめに

北茨城市では、平成26年度より市行政施策として小規模校同士が連携して合同授業を行う「学校間連携チャレンジプラン」が示され、石岡小学校と華川小学校がその該当校となった。

この施策は、小規模校の「強み」であるきめ細かな指導を生かしながら、「弱み」となる単独校ではできない多人数での授業を両校が連携することで実践し、弱みの克服を図るものである。

両校は、少人数による指導を通して児童個々の能力や適性を伸ばしてきたが、集団規模が小さいために、競争心や切磋琢磨などによる学習の発展性と集団活動の学びには課題がみられた。また、教職員は、まとまりはあるが、小規模校のために相互に高め合う機会が少なかった。

そこで、両校は、「学校間連携チャレンジプラン」を活用し、学校の抱える課題解決と活性化を図る学校経営の柱に位置付けて、推進を図ることとした。

平成26年度には、先ず実践することを優先して合同授業や交流を進め一定の効果がみられた。本年度は、一年目の成果と課題を踏まえて、「合同授業をイベントから日常化へ」「学びの質の向上」を主眼において実践を進めている。以下、その取組の一端を紹介する。

2 学校間連携チャレンジプランのビジョン

【目的】

- ① 小規模校同士が連携して、合同で効果的な多人数指導と少人数指導による授業を実践することで、多様な学びと授業の質の向上を進め、確かな学力の定着を図る。
- ② 合同授業を通して、児童間の交流と集団活動を推進し、豊かな人間性と社会性を育てる。
- ③ 小規模校同士の教員が連携して授業を展開することや専門性を生かすことで、指導力の向上を図る。

【はぐくみたい能力・態度】

- 様々な個性や特性をもつ児童とのかかわりを通して、自分をより高めるために学び方を振り返り、新たな課題に挑戦しようとする態度を養う。
- 同学年の多様な考えにふれて、ものの見方を広げたり、考えを深めたりすることで、思考力・判断力を高める。
- 多くの同学年の児童に対して、自分の思いや考えを相手に伝わるように表現する能力を養う。
- 集団での表現活動や小集団での競い合い、磨きあい等を通じて単元のねらいとする教科の特性に触れることができ、学習に対する興味・関心を高める。

3 学校間連携チャレンジプランの実際

(1) 連携する2校の状況

太枠、網掛けは複式学級

	華川小			石岡小			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	0	2	2	1	1	2	1	3	4
2年	5	5	10	2	1	3	7	6	13
3年	6	4	10	1	7	8	7	11	18
4年	2	3	5	1	1	2	3	4	7
5年	4	6	10	6	2	8	10	8	18
6年	10	2	12	9	4	13	19	6	25
計	27	22	49	20	16	36	47	38	85

資料 1

小規模校同士による小小連携・交流を生かした学校経営の取組
～「学校間連携チャレンジプラン」の実践を通して～

北茨城市立石岡小学校
北茨城市立華川小学校

1 はじめに

北茨城市では、平成26年度より市行政施策として小規模校同士が連携して合同授業を行う「学校間連携チャレンジプラン」が示され、石岡小学校と華川小学校がその該当校となった。

この施策は、小規模校の「強み」であるきめ細かな指導を生かしながら、「弱み」となる単独校ではできない多人数での授業を両校が連携することで実践し、弱みの克服を図るものである。

両校は、少人数による指導を通して児童個々の能力や適性を伸ばしてきたが、集団規模が小さいために、競争心や切磋琢磨などによる学習の発展性と集団活動の学びには課題がみられた。また、教職員は、まとまりはあるが、小規模校のために相互に高め合う機会が少なかった。

そこで、両校は、「学校間連携チャレンジプラン」を活用し、学校の抱える課題解決と活性化を図る学校経営の柱に位置付けて、推進を図ることとした。

平成26年度には、先ず実践することを優先して合同授業や交流を進め一定の効果がみられた。本年度は、一年目の成果と課題を踏まえて、「合同授業をイベントから日常化へ」「学びの質の向上」を主眼において実践を進めている。以下、その取組の一端を紹介する。

2 学校間連携チャレンジプランのビジョン

【目的】

- ① 小規模校同士が連携して、合同で効果的な多人数指導と少人数指導による授業を実践することで、多様な学びと授業の質の向上を進め、確かな学力の定着を図る。
- ② 合同授業を通して、児童間の交流と集団活動を推進し、豊かな人間性と社会性を育てる。
- ③ 小規模校同士の教員が連携して授業を展開することや専門性を生かすことで、指導力の向上を図る。

【はぐくみたい能力・態度】

- 様々な個性や特性をもつ児童とのかかわりを通して、自分をより高めるために学び方を振り返り、新たな課題に挑戦しようとする態度を養う。
- 同学年の多様な考えにふれて、ものの見方を広げたり、考えを深めたりすることで、思考力・判断力を高める。
- 多くの同学年の児童に対して、自分の思いや考えを相手に伝わるように表現する能力を養う。
- 集団での表現活動や小集団での競い合い、磨きあい等を通じて単元のねらいとする教科の特性に触れることができ、学習に対する興味・関心を高める。

3 学校間連携チャレンジプランの実際

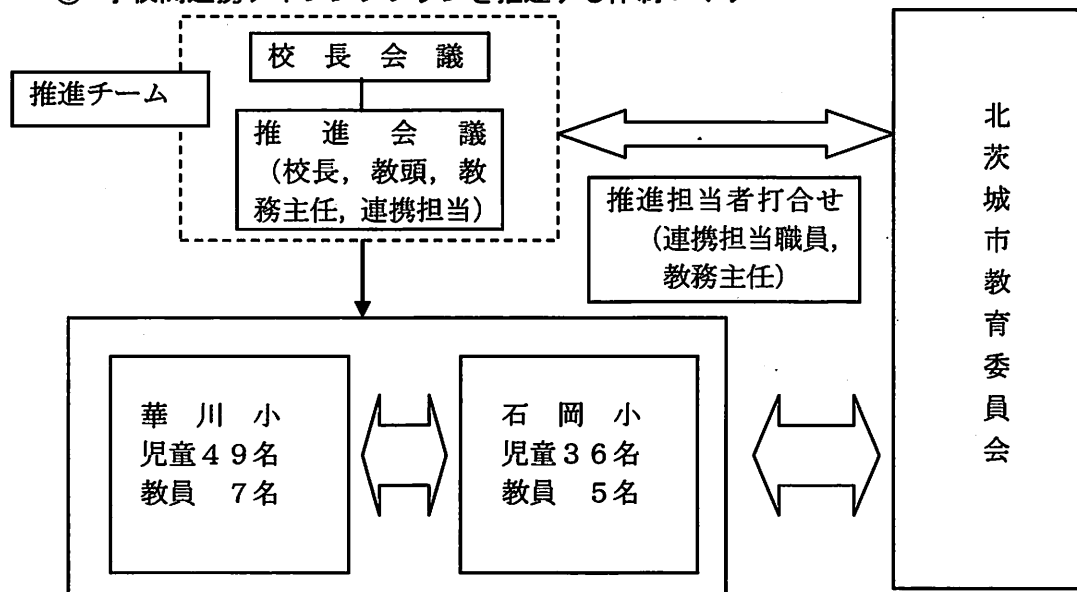
(1) 連携する2校の状況

太枠、網掛けは複式学級

	華川小			石岡小			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	0	2	2	1	1	2	1	3	4
2年	5	5	10	2	1	3	7	6	13
3年	6	4	10	1	7	8	7	11	18
4年	2	3	5	1	1	2	3	4	7
5年	4	6	10	6	2	8	10	8	18
6年	10	2	12	9	4	13	19	6	25
計	27	22	49	20	16	36	47	38	85

(2) 学校間連携チャレンジプランの体制と進め方

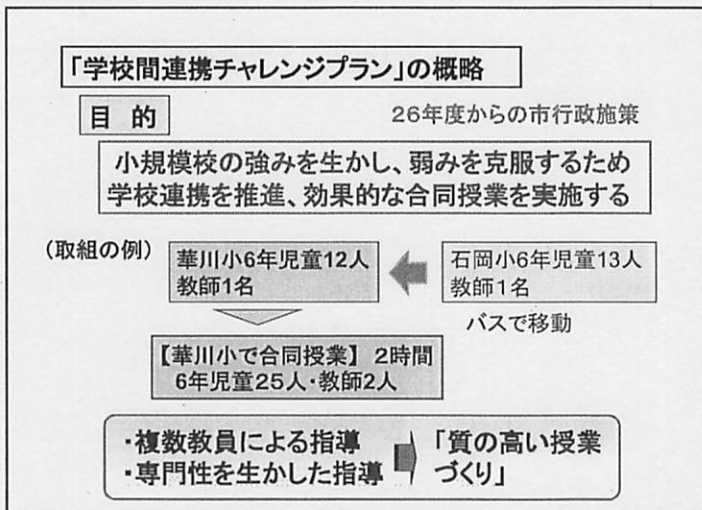
① 学校間連携チャレンジプランを推進する体制づくり



② 推進に向けた取組

1年目 (平成26年度)	2年目 (平成27年度)
<p>ア 校長間でのビジョンの共有 ・連携する学校の校長間でビジョンの共有を図った</p>	
<p>イ 推進会議における具体的計画の立案 ・教務会議を活用し、具体的計画の立案を進めた。</p>	
<p>ウ 職員会議での共通理解・意識化 ・職員会議において、ビジョンを説明し共通理解を図った。 ・新たな施策への取組を通して、職員の士気を高めるよう努めた。</p>	
<p>エ 教育委員会との連携 ・教育委員会と連携し推進担当者である教務主任等の打合せ会議を行う。 ・計画案をもとに合同授業の協議調整をする。 ・バス (市所有) や給食等の手配をする。</p>	
<p>オ 指導案立案と授業打ち合わせ ・会場校が主たる指導者となり、合同授業の指導案を立案する。 ・授業は、複数教員のTT指導とし、役割を明確にして効果的な指導を図る。 ・教員の専門性を生かした授業分担を積極的に進める。 ・授業を行う学校で、指導場所を確認しながら授業打合せを行う。</p>	
<p>カ 家庭・地域への発信 ・本事業の目的と効果を正しく伝え、保護者や地域住民の理解を図った。 (学校便り, 学校ブログ等を活用しての発信)</p>	
	<p>・教務主任, 連携担当 (加配教員) を中心に立案し, 年間計画に位置づける。 ・今年度の方向性を決める。</p> <p>・職員会議において次の内容を説明し, 共通理解を図った。 ア) 「ビジョン」「はぐくむ能力・態度」 イ) 今年度の方向性 年間を見通し効果的な単元での実践 ○イベントから日常化へ (授業は年6回) ○学びの質の向上 ・4月に連携校の教員が集まり, 進め方の確認と合同授業の内容を協議する。</p> <p>・バスの一部を予算化し, 柔軟に移動できる体制を進める。</p>
	<p>・保護者への公開。学校評価で検証。</p>

③ 学校間連携チャレンジプランの方法



【合同授業の方法】

交流する学年児童が、市のバスで相手校に移動して合同授業を行う。

- バス移動は業間休みと昼休みを活用し合同授業は原則3・4校時とする。
- 給食は交流会場の学校でとり、給食センターから配送してもらう。
- 会場校の教員がT1となり授業を計画して進める。

【合同授業の実施教科】


平成26年度	国語 ・ 算数 ・ 生活 ・ 音楽 ・ 図画工作 体育 ・ 外国語活動 ・ 総合的な学習の時間
平成27年度	国語 ・ 算数 ・ 社会(校外学習) ・ 理科 ・ 生活 音楽 ・ 図画工作 ・ 体育 ・ 外国語活動 学級活動(話し合い活動) ・ 総合的な学習の時間

(3) 合同授業の実践

【実践例 1】 H26年度 第1回合同授業
音楽「うたで友だちのわを広げよう」
(対象：1,2年30名, 教員4名)

(ねらい) ・通常できない多人数での合唱・合奏をすることで児童の意欲を高める。

(内容) ・リズム遊び
・多人数での楽器演奏と合唱




(授業の様子と成果・課題)

- ・児童は、リズム遊びを通して打ち解けて、楽しく学習していた。
- ・音楽免許を持つ教員がT1となり指導にあたったため、専門性が生かされ、普段よりも児童がよりよい響きで歌う様子がみられた。
- ・支援を要する児童の共通理解など授業者同士の顔を見た打合せが必要である。

【実践例 2】 H26年度 第2回合同授業
体育「水泳」
(対象：3～6年64名, 教員7名)

(ねらい) ・多人数で活動することにより、協力しながら水泳学習の楽しさを味わう。

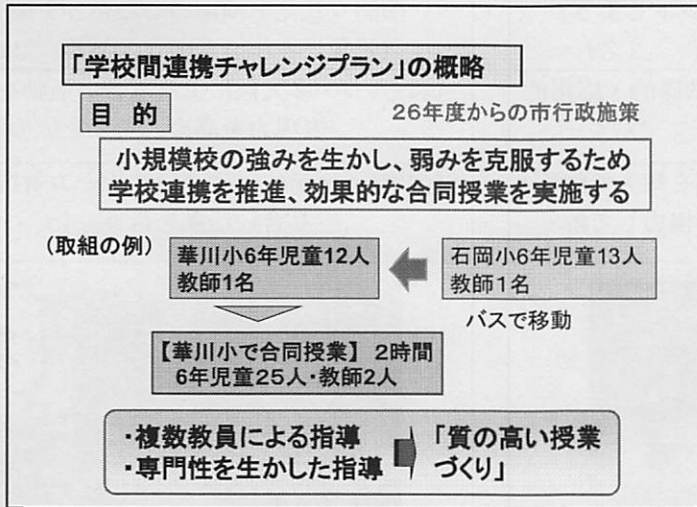
(内容) ・泳力をもとに3つのコースに分かれ、コースごとに学習



(授業の様子と成果・課題)

- ・児童は互いに刺激あいい、競い合い、泳力でも取組の面でも意欲的に取り組めた。
- ・複数の教師による指導ができたので、児童一人一人に細かく関わり支援ができた。
- ・事前にコース分けをしたので効果的な指導ができた。
- ・打合せから当日までの期間が短く、安全面からも余裕をもった打合せが必要である。

③ 学校間連携チャレンジプランの方法



【合同授業の方法】

交流する学年児童が、市のバスで相手校に移動して合同授業を行う。

- バス移動は業間休みと昼休みを活用し合同授業は原則3・4校時とする。
- 給食は交流会場の学校でとり、給食センターから配送してもらう。
- 会場校の教員がT1となり授業を計画して進める。

【合同授業の実施教科】


平成26年度	国語 ・ 算数 ・ 生活 ・ 音楽 ・ 図画工作 体育 ・ 外国語活動 ・ 総合的な学習の時間
平成27年度	国語 ・ 算数 ・ 社会(校外学習) ・ 理科 ・ 生活 音楽 ・ 図画工作 ・ 体育 ・ 外国語活動 学級活動(話し合い活動) ・ 総合的な学習の時間

(3) 合同授業の実践

【実践例 1】 H26年度 第1回合同授業
 音楽「うたで友だちのわを広げよう」
 (対象：1,2年30名, 教員4名)

(ねらい) ・通常できない多人数での合唱・合奏をすることで児童の意欲を高める。

(内容) ・リズム遊び
 ・多人数での楽器演奏と合唱




(授業の様子と成果・課題)

- ・児童は、リズム遊びを通して打ち解けて、楽しく学習していた。
- ・音楽免許を持つ教員がT1となり指導にあたったため、専門性が生かされ、普段よりも児童がよりよい響きで歌う様子がみられた。
- ・支援を要する児童の共通理解など授業者同士の顔を見た打合せが必要である。

【実践例 2】 H26年度 第2回合同授業
 体育「水泳」
 (対象：3～6年64名, 教員7名)

(ねらい) ・多人数で活動することにより、協力しながら水泳学習の楽しさを味わう。

(内容) ・泳力をもとに3つのコースに分かれ、コースごとに学習




(授業の様子と成果・課題)

- ・児童は互いに刺激しあい、競い合い、泳力でも取組の面でも意欲的に取り組めた。
- ・複数の教師による指導ができたので、児童一人一人に細かく関わり支援ができた。
- ・事前にコース分けをしたので効果的な指導ができた。
- ・打合せから当日までの期間が短く、安全面からも余裕をもった打合せが必要である。

【実践例 3】 H26年度 第3回合同授業
算 数「問題をといて宝をゲットしよう」
(対象：3年 7名 ， 教員 2名)

(ねらい) ・既習事項をもとに、基礎的・応用的な問題を個人やグループで解く。

(内容) ・妖怪からの基礎的問題を個人で解く。
・応用問題をグループで協力して解く。




(授業の様子と成果・課題)

- ・応用問題では、児童が学び合う場がみられた。
- ・いつもは教える立場であった児童が、問題を解く中で教えられる立場を経験することができた。活動を通して固定化している立場や人間関係に変化がみられた。
- ・相手児童の実態をもう少し把握して、問題プリントの作成にあたるとよかった。

【実践例 4】 H27年度 第1回合同授業
国語「意見と理由のつながりを聞き取ろう」
(対象：6年25名 ， 教員 2名)

(ねらい) ・多人数による話し合い活動を通して、表現力を高め、考えを広める。

(内容) ・テーマについてチーム対抗による話し合い活動を行う。(ディベート)



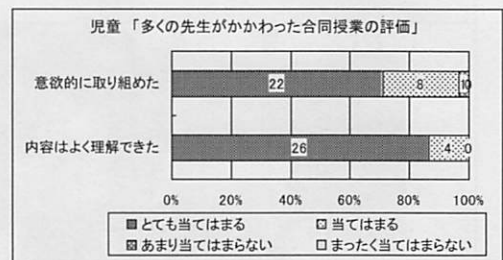
(授業の様子と成果・課題)

- ・テーマについて事前に考えておいたこともあり、とても良い話し合いになった。
- ・児童からは、意見を出し合って競い合ったことや他の学校の意見が聞けて楽しかったとの声が聞かれた。
- ・言語活動を深める良い活動の場となった。
- ・工夫の必要なテーマもあった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 小規模校同士による多人数の合同授業は、児童にとって良い刺激となり、競い合いや教え合う学習活動を促進し、学習の質を高める上で効果的である。
- ② 学校間の交流活動は、同学年の児童のコミュニケーションや人間関係づくりを学ぶ適切な機会となっている。
- ③ 教師の専門性と得意分野を生かした指導を行うことで、児童にとっては学習が深まり、教師にとっては、自らの指導を振り返り、研修する機会ともなっている。
- ④ 学校間連携チャレンジプランの内容・効果を保護者・地域に発信してきた結果、保護者の学校評価からは高い評価を得る。
- ⑤ 2年目となり本事業を経営の重点に位置付けたことで意識が高まり、職員がまとまって主体的に授業や交流の工夫改善に取り組む姿がみられ、学校の活性化につながっている。



(2) 課題

- ① 合同授業において効果的な集団学習を行うにも、適度な児童数が必要である。両校とも新入学児童が減少しつつあるのが課題である。
- ② 学校間連携チャレンジプランを推進するには、両校の調整と合同授業をリードしていく連携担当を位置づけ、授業時間等で負担を軽減しながら育成していく必要がある。複式学級を有し、教員数が少ないだけに、人的支援の確保が課題である。
- ③ 子供と同様に職員間の交流を深めることが、本事業の成功の可否につながる。合同研修や親睦会など広く交流を進め、信頼関係を深めていきたい。

北茨城の小・中一貫教育の推進

郷土・国際社会に貢献し、活躍できる人づくり

はつらつ 夢 プロジェクト(仮称)

夢実現に向かって学び続け、自立できる児童生徒の育成

進るに社
教育対会
教育のの
推き変
進化

豊か
な心
と
健
や
な
体
を
育
か
な
推
進
む

確
か
な
学
力
を
育
む
推
進
の

夢
を
育
む
キ
ャ
リ
ア
教
育
の
推
進

中
学
校
区
の
特
色
あ
る
推
進
の
推
進

小・中間での連続性のある充実した指導

北茨城市小・中一貫教育推進委員会

中郷中学区

9年間の連続した学
びを通して、未来へ
の夢を実現できる児
童生徒の育成

- 「地域社会」に貢献しようとする人材を育てるキャリア教育の充実
- 「健やかな体」育成のための小中交流スポーツ活動
- 「豊かな心」育成のための小中交流授業・体験学習の実施
- 9年間の学習の連続性を確保して指導できる教員の協力体制づくり
- 発達段階に合わせた「確かな学力」の育成
- 9年間の学習の連続性を確保して指導できる教員の協力体制づくり
- 基礎教育で身につけたい学習・生活スキルを体系的に指導

磯原中学区

確かな学力を身につけ、主体的に考え実践する児童生徒の育成
～9年間の学びを通して～

- 小・中連携での体力づくり（陸上教室）
- 小学校でのテスト結果を基にした個人カルテの作成・活用
- 家庭学習強調週間（ノーTV、ノーゲーム、ノー携帯デー）の設定
- 「学びの広場」「出前授業」での児童生徒及び教員の小・中交流
- 積極的な相互授業参観
- 学力向上（学びの系統表 家庭学習強調週間 学診模擬テスト）

華川中学区

小中連続性のある教育活動で「生きる力」を身につけた児童生徒の育成
・小中の教育力を生かした教科指導
・一貫性のある生徒指導
・小中教員の指導力の向上

- 児童生徒交流（学びの広場 陸上記録会合同練習会）
- 出前授業の充実（英語 理科 美術 音楽）
- 生活習慣（ノーゲーム・ノーテレビデー マナーアップ）
- 自己の能力や可能性を最大限に生かすための特別活動の推進
- キャリア教育（夢ファイル等の活用）

常北中学区

夢や希望をもち、よりよい集団生活を通して、意欲的に学び続ける児童生徒の育成

- 学びの連続性を確保し確かな学力を育む教育の推進
- 特色ある体験学習を通して豊かな心を育む教育の推進
- 運動する楽しさをもち、健康と体力を育む教育の推進
- 夢や希望を育み社会の変化に対応できるキャリア教育の推進
- 自己の能力や可能性を最大限に生かすための特別活動の推進
- キャリア教育（夢ファイル等の活用）

関本中学区

やささとたくましさにあふれ進んで学ぶ児童生徒の育成

- 児童生徒が、夢に向かって意欲的に学習に取り組めるキャリア教育の充実を通して、
望ましい態度・勤労観を育む
- 縄跳びやランニング活動、部活動の早期参加などの取り組みを通して、健全でたくましい心身を育む
- 英語教育の充実や国際理解教育・国際交流の機会を通して、人と豊かに関わり合う力を育む
- 読書活動・読み聞かせや挨拶・ボランティア活動などを通して、豊かな心と社会性を育む
- ICT機器の活用、ＴＴ・習熟度別授業、相互乗り入れ授業などにより、学ぶ意欲を高め、基礎・基本の定着と課題解決能力を育む

北茨城の小・中一貫教育の推進

郷土・国際社会に貢献し、活躍できる人づくり

はつらつ 夢 プロジェクト(仮称)

夢実現に向かって学び続け、自立できる児童生徒の育成

進るに社会
教育対の
教育応の
ので変
推き化

豊と豊
身健か
教育体な
のをや
推育か
進むな
と

のを確
推育か
進むな
教育力

育キ夢
のヤを
推リ育
進アむ
教 教

進携特
教育色
のある
推連の
の

小・中間での連続性のある充実した指導

北茨城市小・中一貫教育推進委員会

中郷中学区

9年間の連続した学びを通して、未来への夢を実現できる児童生徒の育成

磯原中学区

確かな学力を身につけ、主体的に考え実践する児童生徒の育成
～9年間の学びを通して～

華川中学区

小中連続性のある教育活動で「生きる力」を身につけた児童生徒の育成
・小中の教育力を生かした教科指導
・一貫性のある生徒指導
・小中教員の指導力の向上

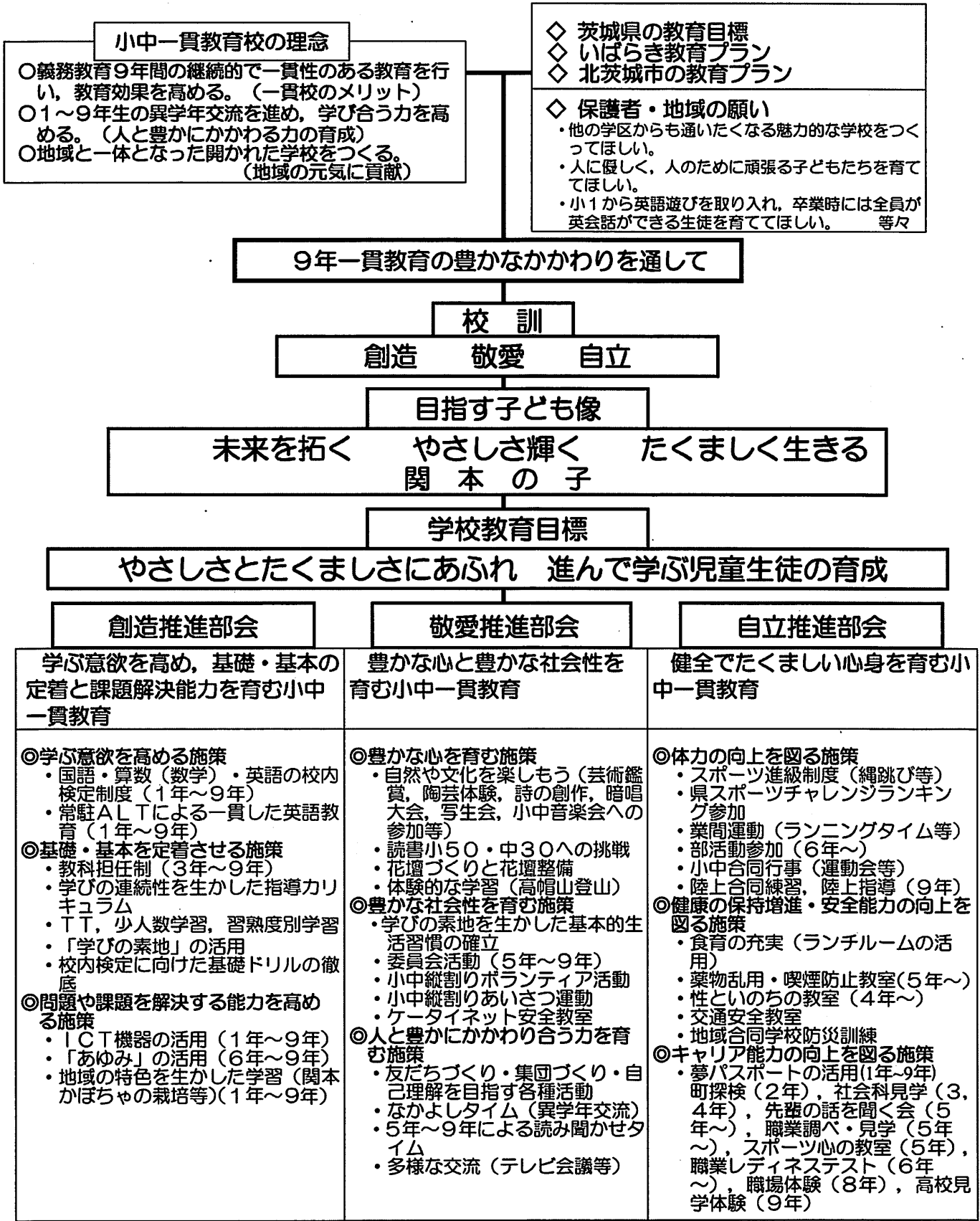
常北中学区

夢や希望をもち、よりよい集団生活を通して、意欲的に学び続ける児童生徒の育成

関本中学区

やさしさとたくましさにあふれ進んで学ぶ児童生徒の育成

- 「地域社会」に貢献しようとする人材を育てるキャリア教育の充実
- 「豊かな心」育成のための小・小中交流授業・体験学習の実施
- 「健やかな体」育成のための小中交流スポーツ活動
- 9年間の学習の連続性を確保して指導できる教員の協力体制づくり
- 発達段階に合わせた「確かな学力」の育成
- 9年間の学習の連続性を確保して指導できる教員の協力体制づくり
- 小・中連携での体力づくり(陸上教室)
- 小学校でのテスト結果を基にした個人カルテの作成・活用
- 家庭学習強調週間(ノーTV、ノーゲーム、ノー携帯デー)の設定
- 「学びの広場」「出前授業」での児童生徒及び教員の小・中交流
- 積極的な相互授業参観
- 学力向上(学びの系統表 家庭学習強調週間 学診模擬テスト)
- 生活習慣(ノーゲーム・ノーテレビデー マナーアップ)
- 出前授業の充実(英語 理科 美術 音楽)
- 児童生徒交流(学びの広場 陸上記録会合同練習会)
- キャリア教育(夢ファイル等の活用)
- 自己の能力や可能性を最大限に生かすための特別活動の推進
- 夢や希望を育み社会の変化に対応できるキャリア教育の推進
- 運動する楽しさをもち、健康と体力を育む教育の推進
- 特色ある体験学習を通して豊かな心を育む教育の推進
- 学びの連続性を確保し確かな学力を育む教育の推進
- ICT機器の活用、IT・習熟度別授業、相互乗り入れ授業などにより、学ぶ意欲を高め、基礎・基本の定着と課題解決能力を育む
- 読書活動・読み聞かせや挨拶・ボランティア活動などを通して、豊かな心と社会性を育む
- 英語教育の充実や国際理解教育・国際交流の機会を通して、人と豊かに関わり合う力を育む
- 縄跳びやランニング活動、部活動の早期参加などの取り組みを通して、健全でたくましい心身を育む
- 児童生徒が、夢に向かって意欲的に学習に取り組みめるキャリア教育の充実を通して、
「たくましく、やさしく、夢をかなえる」児童生徒を育成



地域と一体となった特色ある開かれた学校

- 授業および学校行事の積極的な公開と地域との連携・交流の推進
- 学校たより、ホームページ等の充実と情報の積極的な発信
- 地域人材及び地域環境の積極的な活用（地域から学び、地域を大切に作る心をもつ教育活動）
- 地域行事等への積極的参加と地域への貢献

資料 4

開校に向けた準備・検討内容

組織	検討部員			検討内容	検討期限
	関一小	富士小	関中		
校長部会	作山 豊	坂本 一成	磯辺 文昭	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓、めざす子ども像（案） ・学校教育目標（案） ・学校経営方針、経営プラン（案） ・関本小中一貫校の目玉（特色ある教育活動）（案） ・効果的な学年指導体制 ・関本小中学校グランドデザイン（案） ・地域との連携強化策 ・学校運営機構（校務分掌） 	7. 23 7. 23 8. 19 2学期末 2学期末 2学期末 2学期末 2学期末
教頭部会				<ul style="list-style-type: none"> ・上記内容の再検討 ・3校の備品調査と配備計画 ・3校の会計関係の確認と調整 ・通学路及び手段（バス関係等）に関する調査・調整（市教委との連携） ・関係団体との連携（施設開放を含む） ・引っ越し計画 ・開校式・開校式典への準備計画 ・学校評価 	2学期末 2学期末 2月中旬 2月中旬 2月中旬 2月中旬
教務部会				<ul style="list-style-type: none"> ・上記内容の再検討 ・教育課程 ・学校行事、年間行事計画 ・日課、週時程 ・PTA関係（会計を含む） ・教科担任制、乗り入れ授業 ・地域人材、地域素材の開発・活用 ・異学年合同授業 	2学期末 2月中旬 2月中旬 2月中旬 2学期末 2学期末 2月中旬
創造推進部会 学習指導部	部会長（ ）			<ul style="list-style-type: none"> ・専門性を生かした指導体制計画（乗り入れ授業等） ・一貫教育の特性を生かした学び合い学習の計画 ・学びの連続性を生かした系統的・発展的な指導計画 ・学びの連続性を明確にした基礎基本の指導計画 ・9年一貫教育を生かした学び方、学習規律、学習指導の指導内容（学びへの素地づくり） ・9年一貫教育を生かした学習記録の引き継ぎと活用計画（評価、通信票を含む） ・家庭学習の奨励方法 	2学期末 2学期末 2学期末 2学期末 2月中旬 2月中旬
敬愛推進部会 道徳教育部 特別活動部 生徒指導部 特別支援教育部	部会長（ ）			<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見通した教育活動（案：H27.2.24-27）の再検討 ・学習系統表の作成（新しいグループ編成による） ・豊かな心（本県の児童・生徒に「はぐくみたい大切な心」）を育む活動内容と指導計画 ・豊かな社会性を育む活動内容と指導計画（生活の決まり、校則等） ・人と豊かにかかわり合う力を育む活動内容と実施計画（異学年交流活動、生徒会、児童会、委員会活動等） 	2学期末 2学期末 2学期末
自立推進部会 保健体育部 健康安全部	部会長（ ）			<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を見通した教育活動（案：H27.2.24-27）の再検討 ・学習系統表の作成（新しいグループ編成表による） ・体力の向上を図る指導計画 ・健康の保持・増進を図る指導計画（食の指導、給食指導、安全指導等、ランチルームの活用計画） ・安全能力の向上を図る指導計画 ・キャリア教育に係る指導計画 	2学期末 2学期末 2学期末 2学期末
特色ある教育 活動検討部会	三校校長、教頭、教務主任 各種推進会長			<ul style="list-style-type: none"> ・関本小中一貫校の教育の目玉を検討 	2学期末